

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	秀慈会 グループホーム 桃源の丘 1階		
所在地	静岡県駿河区国吉田6丁目6-6		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201716-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201716-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気のなかで共同生活を営み、認知症の進行が穏やかになるよう努めます。少人数であるからこそ個々のニーズに応えることができるので、第二の人生を快適に過ごして頂けるよう努めます。スタッフは認知症の介護方法などを日々勉強することで介護技術を高め、ご家族にも安心して頂けるようにします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

どの職員も気持ちの良い挨拶ができる事業所です。昨年度の外部評価で「湯煎の食事は味気ないので時々手作りを…」と提案したところ、速やかに職員間で話し合ってください、調理レク、おやつレクと銘打ったお楽しみ企画が定着しています。いなり寿司やクリームソーダ、チョコバナナ、ポップコーン、餃子の皮でピザづくりと職員がアイデアを出し、また月1回のローテーションとすることで調理が苦手な職員の負担も抑え、楽しく推進されています。法人本部でキャリアを積んで当事業所に配属された職員が多く、「利他の心をもって職員間の和を作為すること」との理念が浸透していることが覗えるエピソードです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の理念や家訓に準ずる。2019年4月より、桃源の丘独自に新運営基準を作成する。方針を示し、どのような考え方や姿勢が求められるかを具体的にしている。	法人でキャリアを積んで当事業所に配属された職員が多く『秀慈会運営の優先順位』1番である「患者・利用者」を大切に考え、また『秀慈会家訓(理念)』の「利他の心をもって職員間の和を作為すること」を体現できていることがフロアの安寧を生んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普段から施設周辺を散歩している。1月には入居者様のご家族からの紹介でS型デイサービスに参加し、地域の方々に認知してもらう機会となる。近隣小学校の社会科学習を2年続けて受け入れている。	開設から4年を迎え、知名度が少しずつあがっている手ごたえがあります。利用者家族が運営の一端を担うS型デイサービスサービスへ、その家族の提案から利用者5名、職員2名が参加を果たし、また社会科学習の一環で小学生6年生5、6名が訪れることも継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者様の日常生活を伝えている。ご家族や地域包括支援センター、薬局にも参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各回の議題で参加者から意見を伺い、施設運営の参考にしている。10月より提携薬局も参加してくれている。桃源の丘通信にはコメント欄を設け、入居者様の様子をお伝えしている。	運営推進会議は、敷地内にある看護小規模多機能型居宅介護事業所と合同で隔月開催が重ねられ、取引先の薬局の出席では与薬関連における話題の充実実っています。話し合いの中では、家族から「夜勤者は大変ですね」といった、面会では出ない発言も得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の不明点を聞く程度で、積極的な関わりはみられない。運営推進会議には毎回案内を送っており、令和元年度は1回参加して頂いた。11月に事故報告書の提出あり。	地域包括支援センターが運営推進会議には毎回出席くださり、専門的な意見を頂いています。またグループホーム協会では年数回講座があり、ヨコの連携も兼ねて参加するほか、今年はコロナ対策で中止となった集団指導は、担当窓口で資料を受けとり、内容を確認しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	秀慈会での拘束研修会に参加し、講義を聞いたりグループディスカッションを行ったりしている。他施設で拘束をしている方が入居する場合、必要があるか、検討している。拘束をする場合はご家族に説明、同意を得て拘束同意書を作成する。	身体拘束廃止未実施減算については毎月話し合いの場を設けており、内容も現場で起きていることで協議され、具体的です。研修も年2回開催され、法人本部でおこなうため、出席できない職員のための口伝研修もフロア会議などを通じて実施しています。	委員会名称やメンバー構成等精査が必要な点もあり、今後の書類整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から虐待のないよう、スタッフ間で声をかけあっている。身体的虐待だけでなく、心理的虐待にも注意している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族がいない入居者様お身元引受人に定期的に連絡している。 必要があれば面会や物品のお願いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や注意事項を丁寧に説明し、契約内容を理解していただくよう努める。 疑問点はいつでも管理者に言っていたくようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のカンファレンスを毎月おこない、スタッフ間で情報共有をしている。 行事、外出のことから内服薬の変更まで、何かあればご家族に都度お伝えしている。	『桃源の丘通信』は写真入りで共通スペースを日常の記事的に作成し、本人の担当職員が手書きでメッセージを添えています。「寒いと言うことがあるためブランケットを持ってきてほしい」といった交換日記のような内容となっていて、温かみがあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の自己評価とヒアリングを実施している。 その外にも、意見や提案があればその都度話を聞く姿勢をとっている。問題点や課題は解決策を検討のうえ、フィードバックする。	「カラオケの機械が1台しかないため2階にチューブをつけて欲しい」といった忌憚ない意見は常にでています。またコロナ対策による学校封鎖に配慮し、小学生の子どもをもつ職員の勤務時間を短縮するといった協力体制がすぐに敷けるチームワークの良さもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	美点凝視 スタッフの優れた点、良い点を見るように心がけている。 小さなことでも感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促進、自己啓発活動を推奨する。普段の業務での課題や改善点を話し合い、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。 他グループホームの施設長などと交流を図り、情報交換をする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状態確認で得た情報をスタッフに伝え、受け入れ体制を整える。 新規入居者様についてはADLなどを考慮し、入居フロアを検討する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっての希望や要望を伺い、グループホームでできることをお伝えして、実践する。ケアプランにも反映させ、PDCAをくりかえす。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴や前施設での状況を把握し、現在望まれていることや、日常生活を営むうえでの優先順位を考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは全ての介護をおこなうのではなく、洗濯物のたたみや食器拭き、食事の盛り付けなど、できることはおこなっていただく。役割を与えることで、やりがいや生きがいを持って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で、入居者様のちょっとした変化や何気ないできごとなど、気づいたことをお伝えする。また、ご家族からも要望を伺い、ご家族とも協力しあい、できることをおこなっていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく友人や親類、会社仲間などとの面会機会を設けている。 外出や外泊の希望にもお応えできるようになっている。食事会や墓参りなど外出の機会を増やせるように努める。	面会時間は8時半から5時半としていますが、「お仕事の都合に合わせてますよ」「近くに来たら時間を気にせず立ち寄ってください」と家族には伝え、気軽に訪れてもらえるよう配慮しています。家族や親戚のほか、勤務していた頃の部下や在宅時のご近所の訪問もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活歴、ADLや認知の程度などを考慮し、フロアでの座席配置を考える。レクやドライブなどで同席以外の方や他フロアの入居者様との交流を図る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設に移った場合や、外部の病院に入院した場合も関係を保てるよう、電話連絡や面会・お見舞いをする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や初回アセスメント時に本人の想いを伺い、入居後も継続して聞くようにしている。カンファレンスを通してスタッフ側から入居者様へ提案することもある。	居宅の介護支援専門員の資料をベースにして、入居では法人のアセスメントシートを使って情報整理をおこなっています。また、家族には「昔の写真を持ってきてください」とお願いし、思い出語りの中で忘れていたことを呼び起こすという工夫もおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から趣味や生活歴、生活環境などを伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	およそのタイムスケジュールはあるが、それに縛られず、柔軟に対応する。朝の申し送りや送りノートで、体調不良者の状況や様子を把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、カンファレンスを実施している。本人やご家族の希望を伺い、ケアプランの変更や更新をおこなう。生活機能向上連携加算の有無は、リハとも相談して更新・終了している。	2表のサービス内容が大枠のため、「新人職員には把握しづらいのではないか」と管理者に投げかけたところ、5表の支援経過記録がベテランを中心に記述されていることで、新人は「どのようにしたらいいか」を理解している、とのことでした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとしたことでも気づいたことがあればスタッフ間で伝えあうようにしている。リーダーを通しての申し送りや送りノートの活用、カルテの確認などで情報共有しあう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内病院への受診付き添いや、法人内施設への送迎など、ご家族ができない場合は代わりにおこなう。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型デイサービスへの参加や、近隣の寺や施設周辺を散歩している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で診てもらっている。体調不良時はスタッフの付き添いで母体の白萩病院を受診している。外部受診はご家族にお願いしている。歯科や眼科に往診をお願いすることもある。	母体病院が協力医として月2回の訪問診療に訪れており、全員が受診しています。管理者、副主任が原則立ち合い、『訪問診療』に「薬の処方の定期」「不定期」「医師に伝えること」「医師からの指示内容」を細かく記載のうえ、個人ファイルにも転写しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で状況を伝えたり、相談をしたりしている。体調不良時には訪看または看多機のナースに連絡をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、ご家族への連絡で状況を把握する。医療機関やご家族との情報共有に務める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内でできることをお伝えする。母体の白萩病院への入院やグループホーム内での看取りも含め、選択肢をお伝えする。	『重度化した場合における(看取り)指針』で説明のうえ、家族とは合意形成はできています。ただし、書面内容は「看取りを出来る限りおこなう」としており、口頭では「重度化したら母体病院へ」で合意している点は見直しが必要です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送時の流れを手順化し、目につくところに掲示する。また、実際の搬送時の経験談や病院での付き添いの様子など、スタッフに話してもらい、緊急時にスムーズに対応できるようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練の実施や、停電に備えてランタンや発電機、カセットコンロを用意する。災害に備え、飲用水や非常食を備蓄する。	昨年課題だった備蓄は水2リットル12本と食糧1日分を準備するに至っていますが、備蓄一覧のリスト化までには及んでいません。フロア会議では災害時における発電機の使い方の説明がおこなわれた事もありますが、年2回の法定訓練は敷地内の併設事業所と合同実施です。	敷地内の他事業所(同法人)が消防訓練の計画を一括で消防署に提出していることから、実効性が危惧されます。まずは計画の複写物だけでも譲ってもらい、ファイリングすることから始めるよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人、ご家族の想いを尊重し、どうすれば安心・安全に過ごして頂けるかを考える。居室にはご本人やご家族が希望するものを置いてもらっている。	モップをかけながらも利用者一人ひとりに声をかけ、会話の中でその人の今日の具合を掴もうとする様子が覗え、管理者によればそういったことができる職員は多くいるとのこと。実際訪問時には、朗らかに挨拶する職員ばかりであることを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフからの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会を与えている。家訓のとおり、利用者様を第一に考えて行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、整髪や入浴や排せつ後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食レベルに合わせた食形態で提供する。食べやすさや見た目、温かさにも配慮し、提供する。仲の良いもの同士で楽しく食事ができるようにする。体重増にも注意をする。月1回、調理レクやおやつレクを実施している。	盲坂の良事は業者から届くパワチ入りのものを湯煎で提供しています。手作りのものを面白おかしく食する機会を月1回設けており、調理レクやおやつレクと銘打って、いなり寿司やクリームソーダ、チョコバナナ、ポップコーン、餃子の皮でピザづくりと職員がアイデアを豊富に出しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中の水分摂取量の把握し、記録している。脱水や熱中症に注意をする。水分が摂れないときはポカリやゼリーを提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の定期訪問により、指導を受ける。ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯の洗浄や管理をする。提携歯科医と連携し、訪問受診を依頼する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排尿・排便パターンを考える。定時誘導にて、尿意・便意がなくとも便座に座っていただく。夜間帯は定時にオムツ確認とパット交換をする。牛乳やヨーグルト、ゴボウ茶など、薬に頼りすぎないようにする。	便失禁が増え、不穩になってしまう人には可能な限り回避できるよう、癖を掴んで予め声をかけるようにしています。「トイレでの排泄」に努め、最初はリハビリパンツだったのが、「ごわごわしていてイヤ」との本人の意向を汲んで、布パンツに向上させることができた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握。 ラジオ体操や散歩などで、ふだんから体を動かすようにする。 排便がない時の腹部マッサージ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	衣類の準備をしてもらったり、いちばん風呂を交代制にするなどで楽しさを与えている。 入浴時間をタイマーで確認し、長湯しすぎないようにしている。 入浴による体力負担がある方は、入浴後に臥床時間を設ける。	週2日を清潔の目安としています。入浴では着替えを自分で用意すると生活リハビリの時間とすることも大切にしています。肝炎の人は一番最後にしてもらっていますが、健康に問題がなければ順番はローテーションです。蜜柑を沢山もらって、浮かべた日もあります。	入浴が清潔のみが目的でやや作業的になっていますので、「楽しみ」をつくっていくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や日中の自由時間に短時間の臥床時間や休憩時間を設ける。 個々に合わせた臥床時間考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に医師に相談する。 新たに処方された薬の効用や副作用を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの仕事を分担し、やりがいや責任をもっていただく。現役時代の役割や経験を理解し、家事などをお願いする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事計画を立てて、外出の機会を設ける。 初詣や法人内の餅つき大会への参加、公共施設の見学や花見ドライブなど、季節にあわせて計画している。 ご家族にも外出をお願いすることもあり、食事に出かけたり一時帰宅したりしている。	寒い日でなければ午後は散歩に出ています。行事計画は年間で見学と初詣、餅つき大会などの外出行事の他に「外出」と位置付けた月が2回あり、その月の担当者が外出企画を立てており、これまでに美術館や動物園に出かけています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預からないことにしているが、安心感を与えるために預かっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や郵便物の受け入れ、必要に応じてはご家族への電話がけもしている。携帯電話の使用希望者には、持ち込みを許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル拭きなど共有スペースの掃除依頼。カーテンの開け閉めで日光量を調整、レースカーテンも設置する。窓や玄関を開けて換気をする。	2月ならば鬼をモチーフとするなど、レク委員が中心となって季節の風物詩となるような壁画制作が毎月実施されていて、空間に彩を加えています。ソファで居場所づくりが成され、むくみのある人は足台を利用してもらい、席も相性を考慮して、過ごしやすいよう気遣っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置。認知度や介護量を配慮したうえで考える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み。タンス、仏壇、ぬいぐるみなど。レクで作成したカレンダーや塗り絵、誕生日会の写真などをフロアや居室に掲示している。	カーテン(レースも付2枚)、エアコン、ベッド、クローゼット、サイドテーブルと大抵のものが揃っているためか、プラスチックの衣装ケース程度の持ち込みにとどまり、その人らしさにはやや欠けます。利用者本人も日中はリビングで過ごすことが多く、居室は寝室扱いとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や利用者様の動線に物を置かない。障害物は取り除き、安心・安全に生活できるようにする。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	秀慈会 グループホーム 桃源の丘 2階		
所在地	静岡県駿河区国吉田6丁目6-6		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201716-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294201716-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のなかで共同生活を営み、認知症の進行が穏やかになるよう努めます。少人数であるからこそ個々のニーズに応えることができるので、第二の人生を快適に過ごして頂けるよう努めます。スタッフは認知症の介護方法などを日々勉強することで介護技術を高め、ご家族にも安心して頂けるようにします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

どの職員も気持ちの良い挨拶ができる事業所です。昨年度の外部評価で「湯煎の食事は味気ないので時々手作りを…」と提案したところ、速やかに職員間で話し合ってください、調理レク、おやつレクと銘打ったお楽しみ企画が定着しています。いなり寿司やクリームソーダ、チョコバナナ、ポップコーン、餃子の皮でピザづくりと職員がアイデアを出し、また月1回のローテーションとすることで調理が苦手な職員の負担も抑え、楽しく推進されています。法人本部でキャリアを積んで当事業所に配属された職員が多く、「利他の心をもって職員間の和を作為すること」との理念が浸透していることが覗えるエピソードです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の理念や家訓に準ずる。 2019年4月より、桃源の丘独自に新運営基準を作成する。 方針を示し、どのような考え方や姿勢が求められるかを具体的にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から施設周辺を散歩している。 1月には入居者様のご家族からの紹介でS型デイサービスに参加し、地域の方々に認知してもらう機会となる。 近隣小学校の社会科学習を2年続けて受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者様の日常生活を伝えている。ご家族や地域包括支援センター、薬局にも参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各回の議題で参加者から意見を伺い、施設運営の参考にしている。 10月より提携薬局も参加してくれている。 桃源の丘通信にはコメント欄を設け、入居者様の様子をお伝えしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の不明点を聞く程度で、積極的な関わりはみられない。 運営推進会議には毎回案内を送っており、令和元年度は1回参加して頂いた。 11月に事故報告書の提出あり。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	秀慈会での拘束研修会に参加し、講義を聞いたりグループディスカッションを行ったりしている。 他施設で拘束をしている方が入居する場合、必要があるか、検討している。 拘束をする場合はご家族に説明、同意を得て拘束同意書を作成する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から虐待のないよう、スタッフ間で声をかけあっている。 身体的虐待だけでなく、心理的虐待にも注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族がいない入居者様お身元引受人に定期的に連絡している。 必要があれば面会や物品のお願いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や注意事項を丁寧に説明し、契約内容を理解していただくよう努める。 疑問点はいつでも管理者に言っていただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のカンファレンスを毎月おこない、スタッフ間で情報共有をしている。 行事、外出のことから内服薬の変更まで、何かあればご家族に都度お伝えしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の自己評価とヒアリングを実施している。 その外にも、意見や提案があればその都度話を聞く姿勢をとっている。問題点や課題は解決策を検討のうえ、フィードバックする。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	美点凝視 スタッフの優れた点、良い点を見るように心がけている。 小さなことでも感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促進、自己啓発活動を推奨する。普段の業務での課題や改善点を話し合い、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。 他グループホームの施設長などと交流を図り、情報交換をする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状態確認で得た情報をスタッフに伝え、受け入れ体制を整える。 新規入居者様についてはADLなどを考慮し、入居フロアを検討する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっての希望や要望を伺い、グループホームでできることをお伝えして、実践する。ケアプランにも反映させ、PDCAをくりかえす。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴や前施設での状況を把握し、現在望まれていることや、日常生活を営むうえでの優先順位を考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは全ての介護をおこなうのではなく、洗濯物のたたみや食器拭き、食事の盛り付けなど、できることはおこなっていただく。役割を与えることで、やりがいや生きがいを持って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で、入居者様のちょっとした変化や何気ないできごとなど、気づいたことをお伝えする。また、ご家族からも要望を伺い、ご家族とも協力しあい、できることをおこなっていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく友人や親類、会社仲間などとの面会機会を設けている。 外出や外泊の希望にもお応えできるようにしている。食事会や墓参りなど外出の機会を増やせるように努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活歴、ADLや認知の程度などを考慮し、フロアでの座席配置を考える。 レクやドライブなどで同席以外の方や他フロアの入居者様との交流を図る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設に移った場合や、外部の病院に入院した場合も関係を保てるよう、電話連絡や面会・お見舞いをする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や初回アセスメント時に本人の想いを伺い、入居後も継続して聞くようにしている。カンファレンスを通してスタッフ側から入居者様へ提案することもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から趣味や生活歴、生活環境などを伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	およそのタイムスケジュールはあるが、それに縛られず、柔軟に対応する。朝の申し送りや送りノートで、体調不良者の状況や様子を把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、カンファレンスを実施している。本人やご家族の希望を伺い、ケアプランの変更や更新をおこなう。生活機能向上連携加算の有無は、リハとも相談して更新・終了している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとしたことでも気づいたことがあればスタッフ間で伝えあうようにしている。リーダーを通しての申し送りや送りノートの活用、カルテの確認などで情報共有しあう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内病院への受診付き添いや、法人内施設への送迎など、ご家族ができない場合は代わりにおこなう。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型デイサービスへの参加や、近隣の寺や施設周辺を散歩している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で診てもらっている。体調不良時はスタッフの付き添いで母体の白萩病院を受診している。外部受診はご家族にお願いしている。歯科や眼科に往診をお願いすることもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で状況を伝えたり、相談をしたりしている。体調不良時には訪看または看多機のナースに連絡をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、ご家族への連絡で状況を把握する。医療機関やご家族との情報共有に務める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内でできることをお伝えする。母体の白萩病院への入院やグループホーム内での看取りも含め、選択肢をお伝えする。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送時の流れを手順化し、目につくところに掲示する。また、実際の搬送時の経験談や病院での付き添いの様子など、スタッフに話してもらい、緊急時にスムーズに対応できるようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練の実施や、停電に備えてランタンや発電機、カセットコンロを用意する。災害に備え、飲用水や非常食を備蓄する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人、ご家族の想いを尊重し、どうすれば安心・安全に過ごして頂けるかを考える。居室にはご本人やご家族が希望するものを置いてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフからの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に選択の機会を与えている。家訓のとおり、利用者様を第一に考えて行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、整髪や入浴や排せつ後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食レベルに合わせた食形態で提供する。食べやすさや見た目、温かさにも配慮し、提供する。仲の良いもの同士で楽しく食事ができるようにする。体重増にも注意をする。月1回、調理レクやおやつレクを実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中の水分摂取量の把握し、記録している。脱水や熱中症に注意をする。水分が摂れないときはポカリやゼリーを提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の定期訪問により、指導を受ける。ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯の洗浄や管理をする。提携歯科医と連携し、訪問受診を依頼する。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排尿・排便パターンを考える。定時誘導にて、尿意・便意がなくとも便座に座っていただく。夜間帯は定時にオムツ確認とパット交換をする。牛乳やヨーグルト、ゴボウ茶など、薬に頼りすぎないようにする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握。 ラジオ体操や散歩などで、ふだんから体を動かすようにする。 排便がない時の腹部マッサージ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	衣類の準備をしてもらったり、いちばん風呂を交代制にするなどで楽しさを与えている。 入浴時間をタイマーで確認し、長湯しすぎないようにしている。 入浴による体力負担がある方は、入浴後に臥床時間を設ける。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や日中の自由時間に短時間の臥床時間や休憩時間を設ける。 個々に合わせた臥床時間を考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に医師に相談する。 新たに処方された薬の効用や副作用を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの仕事を分担し、やりがいが責任をもつていただく。現役時代の役割や経験を理解し、家事などをお願いする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事計画を立てて、外出の機会を設ける。 初詣や法人内の餅つき大会への参加、公共施設の見学や花見ドライブなど、季節にあわせて計画している。 ご家族にも外出をお願いすることもあり、食事に出かけたり一時帰宅したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預からないことにしているが、安心感を与えるために預かっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や郵便物の受け入れ、必要に応じてはご家族への電話がけもしている。携帯電話の使用希望者には、持ち込みを許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル拭きなど共有スペースの掃除依頼。カーテンの開け閉めで日光量を調整、レースカーテンも設置する。窓や玄関を開けて換気をする。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置。認知度や介護量を配慮したうえで考える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み。タンス、仏壇、ぬいぐるみなど。レクで作成したカレンダーや塗り絵、誕生日会の写真などをフロアや居室に掲示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や利用者様の動線に物を置かない。障害物は取り除き、安心・安全に生活できるようにする。		